

## 【事例 H24-02-04】 富山県富山市

### 富山市メンタルヘルスサポート協力店事業

地域の住民にとって身近な存在である理容・美容師に、メンタルヘルスや傾聴の仕方に関する知識を身に付けてもらい、日頃の接客の中で利用者（地域の住民）の悩みや変化に気づいてもらえるようにするために、ゲートキーパー研修会（精神科医による講義および臨床心理士による演習）を実施した。受講者（店）には、研修で得た知識を実践に活かしてもらうため、「メンタルヘルスサポート協力店」として登録してもらい、保健所が継続的にフォローアップを行っている。

【実施主体】 富山県富山市

【大綱の分類】 2) 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す

3) 早期対応の中心的役割を果たす人材を養成する

【事業予算】 281 千円 (H. 23 年度)

(内訳) 講師代 107,600 円、パンフレット代 90,037 円、ステッカー代 36,960 円、  
通信運搬費 45,600 円

#### 【概要】

富山市（保健所）が、地域の理容・美容組合と連携して実施。地域の住民にとって身近な存在である理容・美容師に、メンタルヘルスや傾聴の仕方に関する知識を身に付けてもらい、日頃の接客の中で利用者（地域の住民）の悩みや変化に気づいてもらえるようにするための事業。受講者（店）には、研修で得た知識を実践に活かしてもらうため、「メンタルヘルスサポート協力店」として登録してもらい、保健所が継続的にフォローアップを行っている。

【利点】（フォローアップアンケートより）

- ▼利用者の話をゆっくり傾聴することを意識して接客できるようになった。
- ▼パンフレットを設置したことで、相談先につながることができるようになった。
- ▼既存の社会資源（市内の理容・美容院は 1500 店）を、地域の自殺対策に巻き込む切掛けになる。
- ▼理容・美容組合と連携することで、広報等の面で協力を得ながら、効率的に事業を実施できる。
- ▼受講者（店）に「メンタルヘルスサポート協力店」として登録してもらうことで、保健所がいつでも理容・美容師をバックアップできる体制（関係性）を築くことができる。受講者には、そうした体制の中で、安心して「ゲートキーパー」としての役割を担ってもらうことができる。

【実施に至るまで】

#### 理容・美容師を対象にする理由

- ① 多くの市民が、理容院・美容院を定期的に利用する

- ② 利用者と1時間近く1対1で向き合い、個人的な事情や生活ぶりを聞くことも多く、利用者の表情等の変化やSOSのサインに気づきやすい立場（距離感）にある
- ③ 変化に気づいたとして、接客の中でさりげなく利用者と会話できる立場にもある
- ④ 研修で得た知識を、日頃の業務の中ですぐに活かしてもらいやすい

#### 計画を立てる上での工夫

- ① 理容・美容師にとって、研修会に参加しやすい環境を整えた（参考資料イ・エ）
- ② 具体的には、できるだけ丁寧に趣旨等を説明して、まず理容・美容組合の理解を得た
- ③ 自殺予防を前面に出すのではなく「日常業務の延長に心の健康支援がある」ことを説明した
- ④ 実際の対応で理容・美容師が困ったときは、保健所が対応することも伝えた
- ⑤ 研修はメンタルヘルスの理解を得やすいものにすると同時に、傾聴の実技を取り入れるなどして日頃の業務の中ですぐに活かせるものにした（下記「理容・美容の具体的な活動」参照）
- ⑥ 組合と相談して、理容・美容師が参加しやすい日時に開催した（理美容店の定休日が多い月曜日に実施。）

#### 具体的な内容

##### ▼研修会は120分間

- ・精神科医による講義「メンタルヘルスの基礎知識」（60分）
- ・臨床心理士による演習「傾聴法、リラクゼーション法」（60分）

##### ▼メンタルヘルスサポート協力店としての登録

- ・登録店舗（受講者）にステッカーを送付し、店舗に貼ってもらう
- ・保健所のホームページで、店舗名と住所を公開する

##### ▼理容・美容師の具体的な活動（参考資料イ、エ参照）

- ・カットしながら会話を通じて癒す
- ・顔色の悪い人や悩みが強い人には、関係機関（相談窓口紹介ガイドに掲載）を紹介する
- ・情報提供のため、待ち時間に読めるメンタルヘルスの冊子を置いておく
- ・変化に気づいたら、必要に応じて保健所につなげる

##### ▼フォローアップ研修

初回の研修会を踏まえ、事例検討を取り入れるなど、より実践的な内容で実施した。

- ・精神科医による講義「メンタルヘルスの基礎知識Ⅱ～うつへの対応～」
- ・臨床心理士による講義「現場で活かす傾聴の実際」

#### 【成果】

- ▼加盟店の増加（H.23年度203店舗⇒H.26年度279店舗）
- ▼理容・美容師からの上々な反響（心の健康の話を気軽に出来る様になった等）
- ▼全国初の理容・美容店との連携ということでマスコミにも取り上げられ、啓発にもつながった。マスコミで取り組みを知って利用する客もいた。
- ▼連携等の実務的な成果について、アンケートには「悩み事を打ち明けられたときに、傾聴し、安心してまた来てほしいことを伝えることが出来た」「パンフレットを渡したり、相談先とし

て保健所を紹介した」等の記載があった。

【特筆すべき点】

▼全国に先駆けて富山市が取り組みを始め、その後内閣府自殺対策推進室と全国理美容連合会の呼びかけにより「理容・美容師向けゲートキーパー研修会」が全国に広まった（参考資料オ、カ）

▼受講者はステッカーを店舗に貼ることで、  
店舗のイメージアップを図れる

▼利用者が待ち時間に手に取れるように  
店に置いてある相談窓口の紹介ガイド



登録店舗に配布されるステッカー



相談窓口紹介ガイド

▼富山市の「介護支援専門員向けゲートキーパー研修」と事業の内容や展開方法に共通部分が多く、その地域における他専門職ゲートキーパーの養成への応用が期待出来る。このほか、県薬剤師会でも薬剤師向けゲートキーパー研修を実施している

▼使用するロゴが同市の「介護支援専門員向けゲートキーパー研修」と同じである為、取り組みの統一性や普及啓発効果・コストの削減が期待できる

【補 足】 自殺予防対策事業費補助金 補助率 1/2

▼平成 21 年度は「地域自殺対策緊急強化基金」を活用したため、市の負担は 0 だった。  
現在は自殺予防対策事業費補助金のため、補助率 1/2。

【事業種別】 研修実施（理美容師対象）

【準備期間・人数】 約 3 ヶ月・2~3 人

【予防段階】 1 次予防、2 次予防

【自治体規模】 人口 417,249 人（平成 23 年度 9 月末日現在）

財政規模 平成 23 年度一般会計予算 約 1,630 億円

【自治体負担率】 無し（H23 年度は地域自殺対策緊急強化基金を使用している為）

【事業対象】 その他（理容師・美容師）

【支援対象】 地域住民（理美容院利用者）

【実施主体・問合せ先】 富山市福祉保健部保健所保健予防課 TEL：076（428）1152

【参考資料・文献】

(ア) [富山市 HP](#)

(イ) 富山市メンタルヘルスサポート協力店事業（内閣府先進事例集）

(ウ) [理美容ニュース](#)（H.22.10.5、H.27.9.27）

(エ) [富山新聞](#)（H.22.10.5）

(オ) 「ゲートキーパー宣言事業」への協力について（内閣府自殺対策推進室）

[「ゲートキーパー講習」の開催について（全国理容生活衛生同業組合連合会）](#)